

(参考)

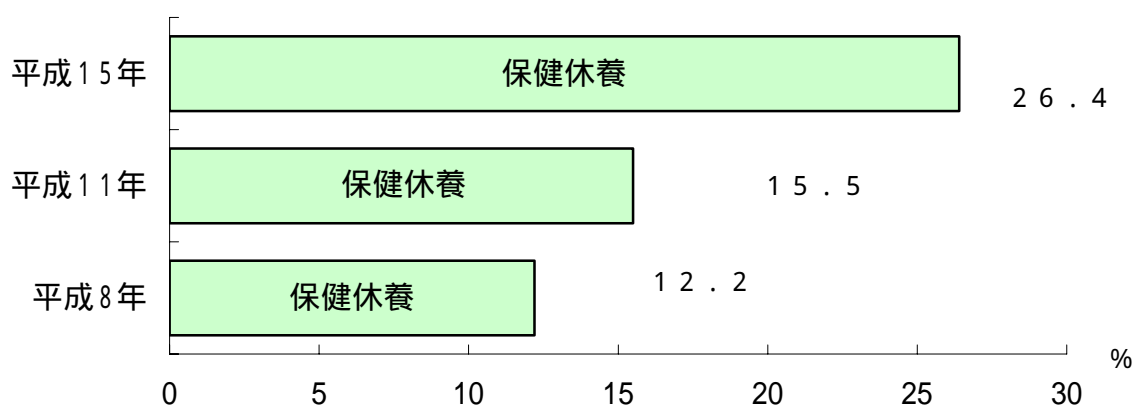
森林を活用した健康づくりの取組

1. 背景

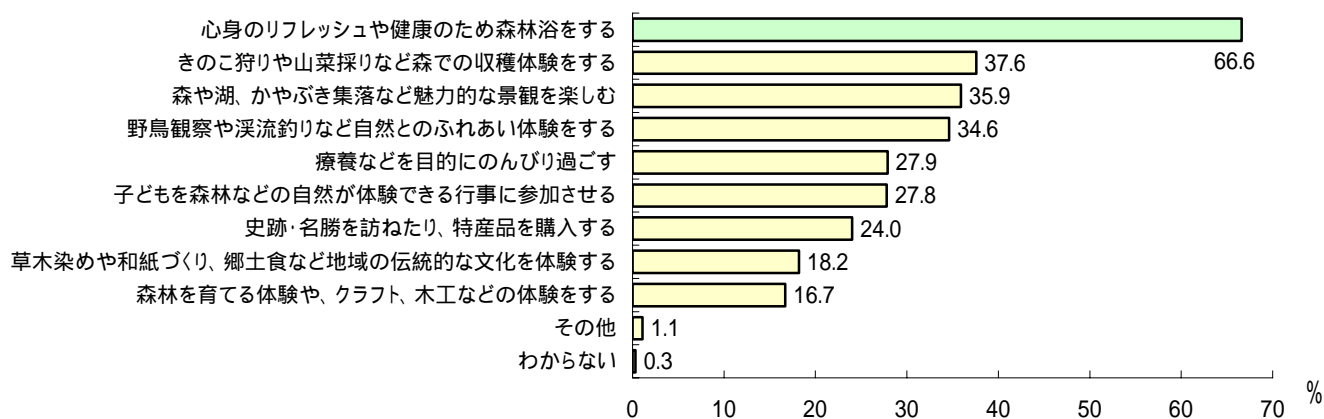
森林の持つ保健休養機能への期待の高まり

近年、森林での様々な体験活動を通じた健康づくりや癒しの場としての利用など、森林の持つ保健休養機能への期待が国民の間で高まっています。

○森林に期待する役割



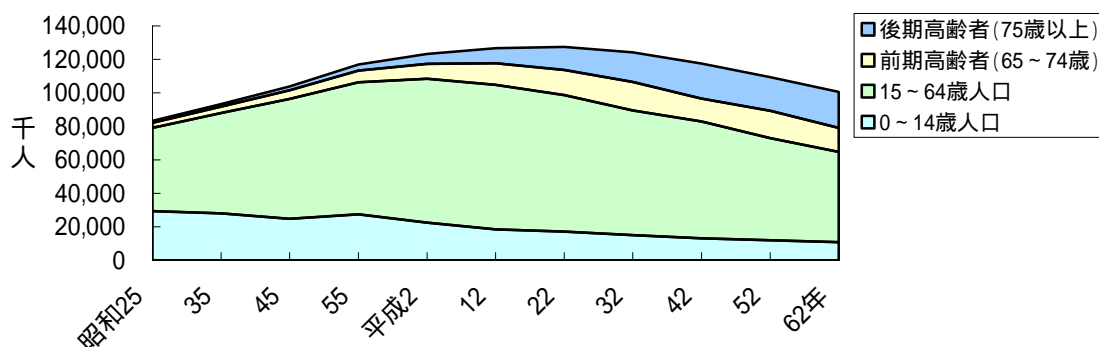
○森林に関する企画への参加意向 (平成15年)



【内閣府「森林と生活に関する世論調査」】

我が国の高齢社会化の進展

今後、我が国は高齢社会化が進み、10年後の平成26年には4人に1人が65歳以上となり、老年人口の割合は今後も上昇が続き平成52年には3人に1人が65歳以上になると推計されています。



総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」による

2. これまでの林野庁の取組

林野行政上の位置付け

）「今後の森林の新たな利用の方向（中央森林審議会答申）」（平成11年2月）

すべての世代の健康づくりや高齢者の生きがいの場として森林を利用していくことが期待されている。

）森林・林業基本法（平成13年6月）

第17条（都市と山村の交流等）

国は、国民の森林及び林業に対する理解と関心を深めるとともに、健康的でゆとりのある生活に資するため、～（略）～、公衆の保健又は教育のための森林の利用の促進その他必要な施策を講ずるものとする。

）森林・林業基本計画（平成13年10月閣議決定）

「2 森林の有する多面的機能の発揮に関する目標」

健康づくり等の森林利用の推進

高齢者をはじめ国民の健康づくりや生涯学習に資する森林の整備と利用が課題



多様な利用者に対応するユニバーサルデザインという考え方を踏まえ、バリアフリーに配慮した歩道等が整備された森林を確保していく必要

森林総合利用施設におけるユニバーサルデザイン手法のガイドライン(平成11年12月)
 森林総合利用施設の整備に当たり、高齢者、障害のある人、児童等の幅広い利用者に配慮する必要があることから、年齢や障害の有無に関わらず、多様な利用活動の選択肢を提供するユニバーサルデザイン手法を踏まえた設計の普及を図ることを目的に作成

【甫喜ヶ峰森林公園（高知県）】

既存の遊歩道に加えて車椅子で利用できる木質チップ舗装のユニバーサルトレイル（遊歩道）や車椅子利用に対応したトイレを整備し、平成14年11月にリニューアルオープンした。来場者への車椅子等の貸し出しも行っている。

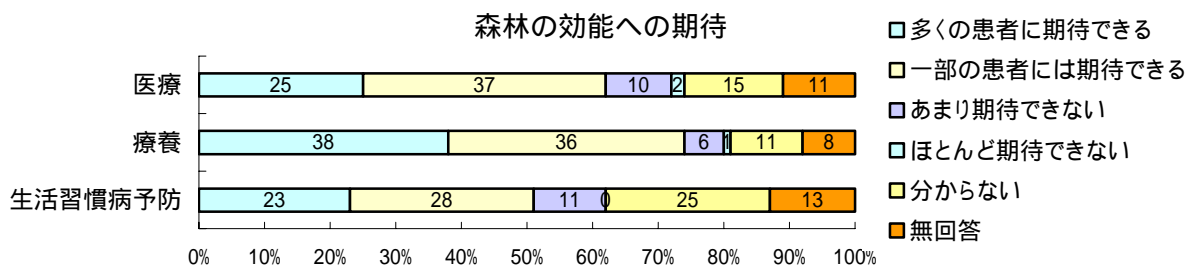


高齢社会における森林空間の利用に関する調査（平成13・14年）

森林空間の利用に関する国内外の実態や動向の把握を行うとともに、医療・福祉機関等と連携しつつ森林空間の利用を推進する手法について調査、検討することを目的に実施

）アンケート調査の結果

「多くの患者又は一部の患者に期待できる」との回答が50～70%に達し、医療・福祉機関等の森林空間の利用に対する期待が高いことが判明



）高齢社会に向けた森林整備の方向

森林整備にあたっては、中高年者の心身の状態に合わせて森林空間を利用した健康づくりができるよう、利用目的に応じた適切な整備、森林空間内での活動をサポートする森林療法士(フォレストセラピスト)の育成、森林の効能に関する科学的な調査研究、等の必要性等を提案

）高齢社会に向けた3つの森づくり構想

中高年齢者の身体機能の程度を「疾病や加齢等に伴い医療や介護が必要」、「病後の体力回復等の療養・保養が必要」、「生活習慣病の予防(健康づくり)が必要」に大別し、それぞれに対応する「医療・福祉の森」、「療養・保養の森」、「生活習慣病予防の森(健康づくりの森)」の3タイプの森づくり構想及び各森林の「森林活用プログラム」を提案